

実習を行う上で工夫したこと・気を付けたこと	
1	訪問先の利用者に前もって了承を得ていたのでスムーズに訪問できた。利用者より家族に十分な説明を行い、理解を得た。
2	様々な事例を確認してもらえるように心がけつつも、あまりタイトなスケジュールにならないよう気を付け、振り返りの時間を長めに設けた。
3	基本的な事を自分でも見直して再確認した。 なるべく色々な事例を見学していただくよう調整した。 一連の流れの見学を同一利用者になるようにした
4	複数のケアマネで担当したため、それぞれの指導内容について事前打合せを行ない、実習内容に合わせて担当を決め、一連の流れに沿って行うことができた。また、項目ごとに担当を決めたため、伝え忘れることなく実施できた。
5	タイムスケ表を事前作成し、オリエンテーションの説明に活用した。 1日のスケジュールに、事例の読み込み時間を配分した。 実習前の打合せで、初日から必要なものを伝え確認した。
6	訪問時のマナーを訪問前に説明を行い、同行訪問の時に注意をしてもらった。 感染症の対策を留意しながら同行訪問を行った。
7	一連の同行や座学を利用者ごとにまとめてわかりやすくした。 書式や情報を事前に渡した。
8	本人がなるべくお話できる方を選定し、色々なケースに同行できるように工夫した。
9	各項目についてそれぞれ意義・目的を踏まえた上で、実習生が挙げている目標について学べるように心掛けた。 説明の途中でも質問や疑問に感じる事があれば意見できるように配慮した。
10	見学前のオリエンテーションでは一方的にこちらから情報を伝えるのではなく、実習生の考えを伺いながら実施するようにした。 訪問前に情報提供を行い、どのような方かイメージ出来るように時間をつくった。
11	提供する事例の選定に気を付けた。課題や状況の違う方の選定が難しかった。
12	モニタリングや担当者会議での質問の仕方、まとめ方等気を付けている事、実習生に見てもらいたい事を予め事業所内で共有してから実習を行った。
13	一連の業務を見学してもらえよう、日程調整を図った。 自身も普段より意図的にご本人様、ご家族様へのかかわりを意識したと思う。
14	同じ法人の職員ではあるが、馴れ合いにならないように指導する際は相談室を使用。 通常業務で訪問しない利用者宅へ訪問できるようにした。 振り返りの時間を多めにとって、実習生が振り返る時間や一緒に考える時間を作った。
15	その日の日程によりケアマネジメントの順序通りの実習は出来なかったため、どの位置の実習なのか目的は何なのかについて時間を割くよう心掛けた。ポツンと取り残されないよう他の職員へも働きかけた。
16	利用者に対しての接遇や個人情報の取り扱い、面接時の言葉遣いや配慮に気を付けて実習を行った。
17	1人の利用者に対する一連のマネジメントを通して見せることは出来なかったが、見学すべきすべての工程は見せる事が出来た。 訪問前に利用者の概要、何の為の訪問かを説明して理解を深めてもらった。 ほとんど隙間なく同行訪問ができた。

実習を行う上で工夫したこと・気を付けたこと	
18	<p>実習生が理解している事、知りたい事を確認しながら指導を行う事。将来、介護支援専門員のしごとを行った時に少しでも思い出して活用出来るよう指導を行う事。</p> <p>家族寄りにならず利用者目線でアセスメントからの流れを行える事。</p> <p>本人、家族の生活の質の向上が出来るようなケアプランを作成する為のアセスメントの重要性の理解。</p>
19	<p>3日間もスケジュール表を作り、実習生がいつ何を学んでいくのかわかるようにした。</p> <p>実習生の習熟度を確認しながら実習を行うよう配慮した。</p>
20	<p>キーワードを読み込んで意識して伝えるようにした。</p> <p>オリエンテーションで伝える事、確認する事等をまとめ、来年度以降にも役立てられるようにした。</p>
21	<p>実習生に情報やケアプランを確認してもらっただけでなく、なぜ現行のサービスとなったか、その理由、経緯なども伝えるようにした。</p>
22	<p>3日間の実習スケジュールを提示し、次の準備（心構え）が出来るようにした。</p> <p>多様な高齢者の生活が見学出来るように調整した。</p>
23	<p>3日間という短い期間でなるべく沢山見学できるように、スケジュール表を作り、実習予定がわかりやすいようにした。振り返りや記録の時間も確保出来るようにした。</p> <p>同行訪問の前に必ず利用者の事前学習を行い、情報を共有し、家族状況や背景、ご本人の人となりイメージ出来るようにしてから訪問に臨んだ。</p>
24	<p>実習生が同席する事を事前に利用者、家族に同意を得た。</p> <p>オリエンテーション進行表、実習スケジュールを大まかに作成した。</p>
25	<p>一連のケアマネジメントプロセスを実習現場で見てもらえるように、事前に事業所内で日程調整したり、同行訪問を行う事例について選定する際、様々なケースをみてもらえる様に配慮しながら決定した。</p>
26	<p>実習スケジュールを作成、担当する職員名も記載してオリエンテーションで確認した。実習生からは実際の訪問や記録の時間などあらかじめ把握出来て良かったと言ってもらった。</p> <p>サービス担当者会議やアセスメントについて机上学習でなく実際の場면을学習できるよう日程調整した。また、複数の利用者と家族の生活状況を知ってもらえるよう調整を図った。</p>
27	<p>ケアマネ業務にやりがいを感じてもらえるようなコミュニケーションを取りやすい利用者、家族の事例選定とした。</p> <p>感染症リスクが高い時期である為、実習生が一人で過ごす部屋を確保する事で飲食を別にしてもらった。実習生の感染リスクを考え、延期となった場合でも実習が完了できるよう期間前半に終了できる日程設定とした。</p> <p>実習生が対象とする利用者宅訪問を2日目の午前中に設定した。初日では事業所と実習生との緊張感があると考えた。また、実習2日目から3日目までの間に実習生職場の公休日を含める事で、実習課題に取り組める時間を持てるようスケジュールを組んだ。</p>

実習を行う上で工夫したこと・気を付けたこと	
28	<p>見学実習が効果的になるように、見学実習前にケースの概要や今回の目的を伝える事や、見学実習後、実習生からの疑問が解消できるように自分の経験と事前研修内であった各項目の意義や目的等を基に指導する事に努めた。</p> <p>モニタリングの先が養護老人ホームの為、施設でのモニタリングの仕方を事前に説明し、多様な要介護者の様子を伺う事が出来るように複数人との面会を設定した。同じ環境にあっても一人一人の関わり方に変化がある事を理解してもらえるように、疾患名と状態を説明してからモニタリングに臨むようにした。</p>
29	<p>アセスメント～担当者会議までの一連の流れを見学出来るように配慮した。</p> <p>感染症の時期でもある事から事業所ないで研修等を行い予定外での対応が出来るようなスケジュールや実習の目的の共有を図った。</p> <p>同行訪問の全後に時間を設け、ケースの確認や訪問目的等を詳しく説明ができるように配慮した。</p>
30	<p>スケジュール表を作成し、わかりやすく予定通りに進行できるようにした。快く受け入れてくれる利用者を選定した。</p> <p>ちょうど新規の依頼があったので、見学実習について説明をし同意を得て初回訪問に同行できた。</p> <p>実習生が何がわかりにくいのか、困っているのかを確認しながら行った。</p>
31	<p>異性の訪問を嫌がる利用者があるので慎重に選んだ。</p> <p>訪問先が気持ちよく受け入れてくれそうな利用者を選んだ。</p>
32	<p>訪問する前にあらかじめ訪問先の情報を共有出来るように心掛けた。</p>
33	<p>居宅ケアマネとして勤務した場合を想定し、実践向きな内容で指導した。</p>
34	<p>モニタリング訪問同行の準備として利用者の情報提供等の事前説明をした。</p> <p>実習指導時、本人の気付きや質問には都度対応し理解を得てもらうよう対応、指導内容の確認をし、自身も対応できるよう事前準備を行った。</p>
35	<p>まんべんなく実習ができるよう多くの訪問に行ってもらった。</p>
36	<p>月の後半にモニタリングや担当者会議を実施したので、スケジュール調整がしやすかった。</p> <p>訪問先は受け入れのいい方へお願いした。</p>
37	<p>3日間の実習期間中の予定を12月中（受け入れ依頼書が届いてからまもなく）から検討し始め、実習内容で決められているケアマネジメントプロセスが実施できるように準備した。</p> <p>独居、高齢、同居の異なる家族構成やサービス種類等様々な事例の見学を予定した。</p>
38	<p>スケジュールは実習生がその日の振り返りや記録を余裕をもって行えるよう計画し、落ち着いて記録できるよう自習室を設けた。</p> <p>CM着任予定ときき、実習期間で出来るだけ多くの事例に触れてもらい実習生に合わせた説明を行うことで効果的に伝えられるよう心掛けた。</p> <p>個人情報、秘密保持についてはオリエンテーションや折に触れ説明しフェイスシールド等は実習後回収した。</p> <p>感染予防のため、毎日開始前に体調確認を行った。</p>
39	<p>オリエンテーション表、スケジュール表を作成し、初日に説明を行った。</p> <p>実習の振り返りの時間を設け記録をしてもらった。</p>
40	<p>実習生の予定に合わせて実習日の日程調整を行った。</p> <p>訪問先、利用者等のプライバシーについて注意し、調整しながら実習を行った。</p>

実習を行う上で工夫したこと・気を付けたこと	
41	介護支援専門員としての基本的姿勢、知識を伝えることに配慮した。また、実践的な技術が習得出来るように工夫した。実習生は包括支援センター勤務だった為、介護予防との違いについて習得してもらえるように工夫した。実習生の目標に沿った事例を選ぶ工夫をした。
42	同行訪問する利用者を選定する上で、精神的に不安定になりやすい方や被害妄想のある方は避けた。
43	事例に偏りがないようにスケジュールを組んだ。 記録や説明の時間を持てるように、訪問件数を多くし過ぎないようにした。
44	スケジュールの調整やオリエンテーションの時間を十分にとることで詳しい説明が行えた。実習指導者事前研修資料を参照し指導することに努めた。
45	緊張せずに実習できるよう、リラックスした和やかな雰囲気づくりを意識した。 一つ一つ丁寧なわかりやすい説明を心掛けた。
46	スケジュールを組み、研修内容を限られた時間内で達成できるようにした。 スタンダードなやり方で丁寧に説明をした。 実習生の勤務経験を参考に理解しやすい表現、例を出す様に工夫した。
47	タイムスケジュールの作成。 多様な要介護者の生活実態の把握。 給付管理期間に実習に来てもらい一連の流れをみてもらった。 焦らせないようにした。
48	本人、家族の負担にならないよう同行訪問先を選定した。 事業所のケアマネ4人がそれぞれ事例を提供する事で様々な場面に関わり、支援方法など体験出来るよう工夫した。
49	時間内に記録が出来るように配慮したこと。 月初めで給付管理等の忙しい時期であったが話しやすい雰囲気を心掛けた。
50	見学実習をお願いする利用者について同居家族の有無、認知症の有無などで似たような方にならない様に配慮した。
51	普段の業務内で工夫している事を伝えるようにした。 制度を理解できるように工夫した。 緊張しない様に具体的に伝えるようにした。
52	事前情報として病識が乏しいのか病気を受け入れる事ができないのか不明な家族への関わり方やサービス提供者間で対応が統一できるよう連携を図る為にケアマネとしての役割を説明した。また、認知症のある夫婦のモニタリングで同時に2人のモニタリングの進め方や生活状況の確認のチェックポイントを伝えた。 実習同行を行う前に、自分自身も改めて再確認してから行った。
53	複数のケアマネで関わり、色々な意見を聞いてもらえるようにした。 訪問前に対象者の状態、状況のポイントを伝え、訪問時に何を聞くのかわかるように工夫した。
54	本人、家族の希望・意向が確認できる事例を提供。 なるべく実習目的が明確になるようにした。 モニタリングでは、質問や確認した理由を利用者に説明するよう心掛けた。
55	事前に訪問のスケジュールを渡し時間管理できるようにした。 訪問前に出来る限り情報を伝えるようにした。
56	事例のパターンがなるべく偏らないようにモニタリング先の選定をした。

実習を行う上で工夫したこと・気を付けたこと	
57	<p>様々なケースを取り入れ、事例が重ならないようにした。</p> <p>早めの日程予定をたて、実習生が書類提出に余裕をもって取り組めるようにした。</p> <p>振り返りや記録の時間配分に考慮し、質問事項にも説明ができるよう時間を多くとるようにタイムスケジュールを組んだ。</p>
58	<p>実習日のタイムスケジュールを作成し、オリエンテーションを実施。</p> <p>事業所全体で迎え入れる姿勢を大切にし、適宜声掛けをおこなった。</p>
59	<p>実習生の勤務状況にあわせ、実習の日程調整をおこなった。</p> <p>実習前、担当ケアマネに実習指導者事前研修資料を一部大切な箇所をコピーして配り、実習の意図の説明を行い協力を仰いだ。</p> <p>訪問に協力してくれる利用者、家族の選別に配慮した。</p>
60	<p>お互い忙しいという事もあり、今回は実習生が遠かったので滞在時間の中で色々な場面を見てもらえるように計画した。</p>
61	<p>実習前に実習計画を立てスケジュール表にまとめ、実習生の準備がしやすいように心掛けた。</p> <p>多様な視点やケースを見学できるよう3名の主任介護支援専門員が対応し、2名ずつ同行した。</p>
62	<p>緊張しないようやさしく対応した。</p> <p>自動車運転時、交通安全に気を付けた。</p> <p>担当者会議の説明時に振り返りができた。</p> <p>在宅の様子について、住宅改修について本人、家族から見せてもらう事が出来るように配慮した。</p> <p>施設内にある他部署へ事前に周知した（期間、駐車場、玄関出入り）</p> <p>学習できる個室を確保した。</p> <p>所内会議で数回にわたり日程や学び方などを検討した。</p> <p>感染対策の方法や配慮などについて事前に確認した。</p>
63	<p>制度で決まっている基本的な事を伝えるよう心掛けた。</p> <p>同行訪問する際、対象者についての情報をあらかじめ伝え訪問中の話の内容が理解出来るようにした。訪問後はすぐわからなかった事、気になった事を確認して伝えた。わからなかったという事がないように工夫した。</p>
64	<p>利用者個人の生活歴、身体面、精神面、生活状況、支援の経緯等が把握しやすいよう心掛けて説明した。</p> <p>個人情報に十分配慮した上で、可能な限りアセスメント記録やケアプランが確認できるよう心掛けた。</p>
65	<p>実習生の家庭事情を考慮した日程希望に添うことができた。</p> <p>なるべく当事業所のケアマネ全員のケースから訪問先を選定したことで各々のケアマネ姿を見せ、対人信頼関係を学んでもらう機会となった。</p> <p>3日間の工程すべてに振り返りシート作成時間を設け、時間内の仕上げを目指した。</p>
66	<p>実習中はマネジメントの順番が前後するため、都度、どの部分か把握できるようにした</p>
67	<p>体調に不安のある実習生だったため、日程調整や内容理解しやすく不安のないよう工夫した</p>
68	<p>住居型有料に入所している方を選定し、居宅と言っても持ち家やアパート等ではない様々な住まいを知ってもらえるようにした</p> <p>課題には速やかにどのように対応しているのか、多職種チームで協力していることを感じてもらうようにした</p>

実習を行う上で工夫したこと・気を付けたこと	
69	業務を教えるのではなく、スタンダードなプロセスを意識した 同法人の居宅と事前打合せをし、受け入れ機関として取り組むことを確認した
70	利用者さんを多めに選定したので、円滑に実習に取組めた
71	事前に実習生が学びたいこと、知りたかったことを聞いたため、少しでも学びとしてお土産を持ち帰れるよう事前準備した。ケアマネ業務の生きがい、張り合いにつながるよう、援助・育成を心掛けた。ケアマネは大変というイメージが払拭できるよう心掛けた
72	実習生が質問しやすいよう、他ケアマネに意見を求める等、話しやすい雰囲気をした
73	訪問前、短時間でケースの特徴をつかんでもらうため、資料の他に象徴するキーワード・エピソードを伝えた
74	ターミナル期の隊員に向けたリハビリ見学後、ICへの参加・リハ職員同行の退院前自宅訪問を見学。実際の相談の様子や各専門職との連携を体感してもらえよかった
75	課題が多い・複雑な事情のない、家族関係が良好な利用者さんを選定・訪問した
76	2日目までの実習で一通り説明・見学できるように設定したため、振り返りやコメント記載に余裕ができた
77	事前研修での資料を指導者へ伝達・各自読み返し準備した スケジュールを早めにたて、指導者が事前に自己学習できるようにした
78	いろいろな支援で指導できるよう、訪問には全ケアマネで同行するようにした
79	事業所のケアマネで関わり、個々の様子も見てもらい、今後の参考となるよう配慮した 看取りで実習生同行は不適切・避けた方がいいケースは控えた
80	記録時間を十分に取し、実習生の負担が大きくなるようにした
81	実習生が緊張しないよう全職員でコミュニケーションを取り、対話時間を多く設け将来像を描けるようにした

良かった点（事業所）	
1	同一建物での実習受入で研修日程の調整がしやすかった
2	認定更新の方が一人しかおらず、担当者会議の様子を一回しか見せられなかった。内容もデイサービスしか利用していない方のため、多職種が関わる会議等の見学機会があれば実習生にとってももう少し有意義な時間になったと思う。
3	自分の業務を振返るきっかけになった
4	実習生用に机を用意し、実際に利用者や家族、各関連機関との電話やり取りを見てもらえてよかった。 基本的なケアマネジメントの説明をすることで、ケアマネ自身の業務に対する整理に繋げることができた。
5	自身に業務を振返る機会となった。
6	サービス担当者会議に参加できなかったが、モニタリング訪問時に本人の状態変化により福祉道具が必要となった為、事業所と連携やケアプランの見直しの必要性が出たことを見学実習できた。
7	居宅事業所が病院内にあるので、病院の職員から協力してもらい入院中の方のアセスメントを見学出来た事やケースの振替が出来たのは良かった。
8	同法人の実習生であった為、感染症の面で心配が（気持ちの上で）少なかった。 担当ケースの対応が必要になり不在になる場合があったが、事業所として実習の対応をしている事で各ケアマネに役割を分散させたり、もう一人の実習担当者が対応し実習を進める事が出来た。
9	ケアプランデータ連携システムについて紹介する事ができ、新しい取り組みを見てもらった事は良かった。
10	事前に受け入れる研修があったので、実習内容も明確にして受け入れることができた。
11	事業所内に指導者が複数名いて見学調整しやすく、また指導内容が偏らず良いと感じた。 実習生が同法人職員のため、人となり事前にわかっていたことや連絡調整もしやすく良かった。 感染予防の観点からも実習生が同法人職員で良かった。
12	同じ法人だったので、実習生の人柄がある程度わかっていてどういう事に気を付けて指導するかなど指導しやすかった。日程の相談や調整がしやすかった。
13	自法人の実習生だった為、お互い必要以上の緊張なく接する事が出来た。事前研修資料があり役に立った。
14	一連の流れを説明する事ができ、良かった。
15	3日間の実習を終えて、実習生の感想から業務の複雑さだけでなく、ケアマネージャーの魅力について感じてもらった。
16	実習生に対し、事業所全体で関わり指導する事ができた。
17	主任ケアマネが複数人いた為、分担して指導する事ができた。 施設内の職員が実習に入る事で、スケジュール調整がしやすかった。
18	コロナ禍で中止となっていた見学実習が開催された。久しぶりであったがこれまで何度か経験していた事もあり、比較的スムーズに受け入れ出来たように思う。
19	同法人の職員で、基礎資格や経験年数がわかっていた為やりやすかった。 指導している中で、自分自身が振り返るいい機会になった。

20	<p>新規で受けた方の退院調整を見学してもらえた事。医療との連携の仕方や情報収集の方法、ご本人の意向や心身の状態を踏まえて、退院後にどんな支援が必要かを一緒に考える機会になったこと。ケアマネが5人いるが、普段の仕事ぶりを見られるという緊張感や自分の言葉で伝えることでそれぞれの振り返りにもなった。</p>
----	--

21	新規担当依頼を受け、インテーク、アセスメント、契約、プラン作成まで一連の流れに同行できた。
22	基本に立ち返り、一連のケアマネジメントプロセスを振り返る良い機会となった。
23	実習にかかわった職員が改めて一連のケアマネジメントのプロセスについて確認する機会となった。 また、相手の理解度や立場に立ち分かりやすく言語化する事の難しさと重要性を再確認する事ができた。
24	担当項目に関する基本的な流れを確認し、実習事項の指導担当を分担し、主マネー人に負担が集中しないよう努力した。 ベーシックを念頭に改めて基本に立ち返って「見せる」ことを意識できた。
25	同法人の実習生であったことから、実習生の基礎資格や経験等の把握ができていた。その為、説明する際にもスムーズに行えた。
26	予定通りに進める事ができ、時間内に記録も完成する事ができてちょうどよいスケジュール調整だったと思う。
27	他のCMの協力を得られて複数の訪問や担当者会議を見てもらう事ができた。少人数の事業所だと訪問先を探すのが大変だと思う。 給付管理ではちょうど実績の時期だったので見てもらいなら説明することができた。
28	実習前に顔合わせを行う事ができ、円滑に行う事ができた。 実習期間が半月ばだとモニタリング等のスケジュールが組みやすい。月末では訪問が限られており調整が困難だった。
29	テーマに沿った実習内容を全て現場見学で実施できたのが良かった。
30	同法人で面識もあったので受け入れやすかった。
31	全て予定通りに進んだわけではないがケアマネジメントプロセスの時期を考慮して実習日程を組んでいたため大きな変更点もなく比較的スムーズに実施できたと思う。 実習生を受け入れる事により、各ケアマネが各プロセスの意義や目的等について再確認し、今後自らの業務にあたる事も出来ると思う。
32	資料を揃えたり、基本理念や基本的なケアマネジメントを伝える中で、自分や事業所全体の業務の振り返りや見直しの機会になったので良かった。 担当職員の病欠により予定を変更する事になったが、複数人で担当していた為、臨機応変に対応できた。実習生には事業を継続する為の体制や特定事業所減算について具体的に説明する機会となった。
33	実習を受け入れた事で自分たちの業務の再確認や意識して業務に取り組む事ができた。
34	実習を行うことで事業所内での日頃の業務を振り返る機会が持てた。
35	サ担を実際に見学してもらい、介護支援専門員がどのように各自の意見を集約しているのか勉強になったと思う。また介護予防計画のプロセスしか経験したことがなかった事から介護計画のプロセスとの違いについて習得し理解できた点は良かったと思う。
36	一連のケアマネジメントを漏れなく説明できた。
37	主任介護支援専門員2名で対応を行い、分担し行うことで負担感も軽減できた。
38	初心に帰り改めて自分たちのケアマネジメントの在り方を振り返ることができた。
39	人に教えるという事で自分でも根拠を考えながら一つ一つ基本に立ち返り一連の流れを振り返ることができたので自分自身も勉強になった。 サ担を組めないことも想定したが、予定する事ができて良かった。
40	ケアマネジメントプロセスを再度スタッフ間で学びなおし初心にかえる事ができた。 実習生を指導しながら自分も学びなおす事ができた。

41	事業所全体で指導にかかわり、4人それぞれの訪問に同行する事で様々な場面をみせることができた。
42	コロナ関係でサ担を予定していた利用者宅に訪問できなかったが、事業所職員全員でサ担を実演し、見てもらう事ができた為、一通りの流れを見学してもらえて良かった。
43	ちょうどサ担を行う利用者がいたため、一つの事例でアセスメント、ケアプラン作成、サ担を行うことができた。また実習生が時間通りにレポート等を書けるように時間配分を考えたが、想定通りに実習を行う事が出来たので良かった。
44	事業所内で分担してできるだけ多く同行出来るようにした。
45	医療保険でのサービス介入や訪問薬剤師との連携が必要な方などケアマネとしての役割、連絡調整の方法など指導する事ができた。 サ担は医師も参加して開催できたので、貴重な経験を共有できた。
46	予定していた方が入院により訪問中止となった為、他の方への依頼や調整に苦慮しましたが、見学実習に本人、家族も協力的でありいつもと同じ面談や会議ができました。
47	指導する側の心構えや目的などを確認する事で自身のケアマネジメントの振り返りができた
48	主任ケアマネが複数名で関わられたのでそれぞれの視点で伝えることができて良かった。
49	事業所にいる介護支援専門員3人全員と同行出来てよかった。
50	実習生の目標（何を学びたいか）に沿い、事例を選定し対応ができた。 どの場面においても丁寧な対応を心掛けた。
51	居宅支援事業所と同施設の特養の介護士が実習生であった為、顔を合わせる機会があり連絡調整がしやすかった。 実習生は主任だけでは負担が大きいため、他のケアマネにも役割分担できて助かった。
52	同じ法人という事もあり、連絡が取りやすかった。普段接点はないが、見かけたことがあると緊張せず実習ができた。
53	実習生が以前、当法人に所属していたため、法人内の状況をすでに理解しており実務に入りやすかった。
54	改めてケアマネジメントの基本的な事を見直す機会になった。 部署内4名全員で対応できた。 個室を準備して集中できる環境づくりを行ったこと。
55	実習生を迎えるにあたりケアマネ業務の確認や見直しをし、基本に立ち返るいいきっかけになった。同行訪問の依頼に対して拒否する方がいなく、対象者選定に困ることなく予定をたてられた。
56	介護サービスだけでなく、他制度や地域における社会資源等を活用しながら生活している事を理解したと思う。 サ担に複数回同席できたことで、それぞれの担当者の会議進行方法や雰囲気を経験できたと思う。
57	実習前オリエンテーションを設けたことで、見学実習の目標に添って疑義に答える準備ができた。
58	同施設内の実習生のため、感染症罹患時の対応は柔軟にできた（異なる場合、難しい）
59	アセスメント課題の捉え方が新鮮で初心に戻ることができた
60	実習生から「研修で学んだ模範的なカンファレンスだった」と言ってもらえた。同法人職員で話しやすく良かった
61	ケアマネを目指す人が減る中、実習に来たことで職員がとても喜び仕事へのモチベーションが上がった

62	利用者さんが実習生に興味を示し、いつもより楽しそうにしていた良かった
63	入退院時の連携で実際に利用者さんと病院へ行き、主治医・ケアマネが話している場面を見学でき良かった
64	感染リスクのある中、同法人の実習生だと考え方が同一・説明が容易で助かった。いいマッチング方法で助かった
65	急な受入だったが、事業y祖内で協力し受け入れ体制をとることができ良かった（←当初予定事業所が加算外となり急遽受け入れてもらいました）
66	実習生が来たことでいい刺激となり、いつも以上に話した利用者さんもいた

困った点（事業所）	
1	事業所にいるケアマネが少ないと対応が必要な時に代わりがいなくて困る
2	実習対応が初めてのケアマネは説明が不慣れと感じた。
3	実習期間が月末月初にかかり、担当者会議の対象者選定とセッティングに苦慮した。
4	訪問予定でサービス担当者会議の同行訪問が、家族が感染症に罹患したことで中止になってしまい見学実習を行う事が出来なかった。当日にわかった事で他のケースに調整が行えず実習生には申し訳なかった。急遽、事業所で説明を行った。
5	同行訪問予定の方が入院してしまい、急遽予定変更しなければならなくなったのでバタバタした。
6	実習生の事前目標に添う方の見学調整が難しかった。
7	事例を紹介して訪問予定する上で、給付管理業務を実際に見てもらおう事を考えると日程をたてる時期がどうだったのかと考える。
8	担当者会議で一部事業所が連絡なく新人を帯同してきた。担当ケアマネも参加人数を直前に家族に伝えたことで苦情となってしまった。
9	ご本人様、ご家族様によっては、こちらが想定しているよりも実習生を連れていくことに心理的負担を感じる方もいらっしゃる、予定が中止となることがあった
10	実習期間内にいろいろな事例の方の訪問はできなかったため、口頭での説明となった。
11	担当者会議の予定をしていた利用者が入院してしまったため、急な変更をしないといけない状況になってしまった。
12	プロセスをすべて行うには、日程的に難しかった。
13	訪問をお願いし予定していた方が、コロナ感染や受診等でキャンセルになり、実習間際で訪問先が変更になり準備にバタバタした。
14	担当者会議、モニタリングの日程を合わせる事が大変。
15	これまで実習の受け入れ実績がなかった事もあるが、現状の準備は一人に集中し、通常業務に負担が集中していた。
16	実際の見学実習ができるように1ヶ月くらい前から準備をしていたが、実際には体調不良の方が相次ぎ、実習内容と実習日を合わせる事は難しいと思った。予定が変更になり、口頭での説明になり、まったく準備が出来ていなかったため、自分自身も不十分な中での説明になってしまい反省している。
17	感染症の時期であり、訪問予定の利用者や家族が感染や健康観察等となってしまい訪問予定を変更する事になった。また実習生自身の職場での感染症発生等が重なり実習日の変更を行った。多様性の理解を図るために利用者の選定をしていた事もあり、再選定や日程調整に支障を感じた。実習期間が感染症の時期と重なることから期間設定を長くする、予備日を設ける等感染症等に支障がない実習期間の設定だといいいと感じた。
18	アセスメントはMDSで行っているため、実習生にはわかりにくかったと思う。
19	3日間で実習内容を組み込むため、日程調整が難しい。
20	リアルな現場を見学させようと試みたが実習期間とタイミングが合わず、中々日程調整が困難だった。
21	予定していた担当者会議が事業所の都合により中止になってしまい困った。
22	実習内容の項目を選んでも利用者の入院等で予定変更があり調整に苦慮した。 限られた日程の中で指定の項目を組むのに苦慮した。 特別養護老人ホームと併設しており、感染症の発生もあり留意した。
23	実習生が自身でアセスメントを行うことが事前にわからず準備に困った。

24	実施期間中に医療機関との連携に関する事例で、サ担を見学出来なかったこと、アセスメントの見学を実施できなかったことは残念だった。
25	同行訪問したら独居の方が転倒して流血していた。急遽担当ケアマネが受信に付き添うことになり、他のケアマネが実習生を迎えに行くという事があった。
26	同法人の実習生を受け入れたが、実習生とのスケジュール調整が大変だった。
27	訪問の調整の際、コロナ感染症を心配して訪問の人数が増えることに消極的な方が多いと感じた。アセスメントの実施の場面を実習期間に調整する事が難しいと感じた。
28	給付管理の忙しい時期、職員の人事異動、退職等により事業所全体が落ち着かない中、体制が整っておらず実習生にも迷惑をかけたのではないかと思う。
29	サ担に出席してもらおう際、事前に十分な情報を伝えられなかった。
30	実習生の日程と訪問日の日程の調整が大変だった。
31	同行訪問後のケアマネ間で、もう少し共有して進めたら不足の点があっても補えたかもしれない。
32	様々なケースの見学をと思ったが、訪問に時間がかかるケースもあり、予定通りのスケジュールで進めることが出来なかった。 見学担当ケアマネの急な調整が入ったことで、計画書作成説明見学に時間が費やせなかった。
33	短期間のスケジュール調整。曜日指定のスケジュール調整。 受入事業所側で受入可能時期などを掲示でき、マッチング出来るといいのではないか。 連絡期間において、連絡可能時間が限られていた為、電話以外の方法も検討した方がいいのではないか。
34	内諾を得た訪問先から当日になって体調不良となり急遽代替えケースをお願いする事があり苦慮した。
35	施設勤務の実習生のため、感染対策で昼食は別々にとった結果コミュニケーション不足で緊張感が続いてしまった
36	受入れで業務量が増えてしまうのは仕方がないが、受け入れ事業所に偏りが無いようにしてほしい
37	早い時期に利用者選定をしたため、入退院時や看取り事例が組み込めなかった
38	実習指導者の近くに実習生の机確保が難しかった
39	実績を教えることに非常に苦労した
40	異性の訪問NGの利用者さんもいて、選定に時間を要した

令和5年度 実務研修見学実習受け入れに対する評価記録用紙（事業所用）集計

良かった点（実習生について）	
1	挨拶から立ち居振る舞いが完ぺきだった。絶妙なタイミングで相槌も打ってくれていた。スムーズに実習が進められた。
2	礼儀・マナーのしっかりした方で、気になったことは質問でき特段問題なく終了した。
3	自分の足りない部分を勉強したい、学びたいといった姿勢が見られ、前向きに取り組んでいた。医療職の方で、医療との視点の違いなどこちらも学ぶことができた。
4	同法人ということで、その場で疑問を都度質問できてよかった。実習生から、一つの質問に対して答えを広げて説明してもらえてよかったと感想をいただいた。
5	看護師勤務の実習生。知識・経験が豊富な方と思うが、在宅サービスへ転職することもあり一から学ぶ姿勢に好感が持てた。
6	まじめで明るく、安心して同行できる方で、色々な事を伝えたくなくなった。
7	実習に真摯に取り組まれ、良かったと思う。
8	スムーズに理解してもらっていたと思う。的確な質問で理解できている事やわからないことをきちんと伝えていた。
9	熱心に実習に取り組まれていた。わからないことはすぐに確認したりと一生懸命だった。実際に面談の様子を見学してもらうことで、言葉では説明しなくても気づきも多かったと思う。
10	振り返りの時間に実習目的や学んだ事を確認している中で疑問に思った事や感じた事（教科書で学んだ事とは違い実際に利用者や家族とのコミュニケーションの取り方や信頼を構築するためのプロセスや寄り添う姿勢を見学する事が出来て良かった）を聞きながら日頃から悩んでいた事も話す事が出来た。担当者会議の準備や実際の会議に出席した後の振り返りで必要な事を学び（利用者も一緒に目標に向かいチームで連携する事の大切さがわかった）今後の業務にも活かせると思われる。
11	積極的に質問があったり、復唱もあり自発的に理解しようとする姿勢があった。
12	事前準備をしっかりしていたことで、受け入れ側もスムーズに実施できたと思う。
13	見学したことで学んだ事を自分の日常の業務に置き換えて役に立てたいと言っていた。
14	挨拶の声も大きく、表情も笑顔で、話し方や内容も誠実で感じが良い。利用者宅でもトラブルなく対応できていた。また、指導中も積極的に質問を行い、指導後も感想を意見し一生懸命さが感じられた。
15	わからない事や不安、心配な事など相談、質問してもらっていたので、こちらも具体的に答えられ積極的に学ぶ姿勢が感じられた。実習生でもマナーを守り実習が出来ていたと思う。
16	学ぶ姿勢が前向きで、目標がしっかりしていた為、指導しやすかった。見学実習の目的を理解していた。
17	服装や実習に臨む態度が良かった。当事業所以外の職員にも、はきはきと受け答えし態度良く接していた。ケアマネージャーの仕事、ケアプランの作成方法など積極的に質問していて良かった。
18	受講生のマナーがきちんと守れていた。地域の特性を理解していた。
19	あいさつや服装、身なりはきちんとされていて、時間も厳守されていた。わからない事を積極的に質問し、学ぶ姿勢がみられた。
20	疑問に思ったこと、確認したい事を積極的に質問する姿勢があり良かった。

令和5年度 実務研修見学実習受け入れに対する評価記録用紙（事業所用）集計

21	<p>実習生自ら学ぼうとする姿勢をもって意欲的に取り組まれていた。社会人として勤めている方であった為、基本的な接遇等も特に問題なかった。また、質問をするタイミングも見計らって行われていた為、業務上も負担に感じる事はなかった。</p> <p>実習指導者のコメントを記入する作業は大変さを感じていないわけではないが、実習生も一生懸命学び取ろうとされていると感じた為、出来ることは伝えたいという思いで記入した。</p>
22	<p>挨拶やマナーなどきちんとした対応だった。</p> <p>理解したことや確認が必要な事を都度聞いてきて、実習生の状況がわかり対応しやすかった。</p>
23	<p>実習生は包括に所属しており、給付管理以外の実務経験があった為、実習内容をイメージしやすかった。</p> <p>職員と別室で記録してもらう事で、作業に集中していた。</p>
24	<p>実習前の事前確認日の確保や実習中の的確な疑問、質問の内容を含め、真剣に実習に向かう姿勢が見られ、とても良い印象だった。</p> <p>実習中の態度も良く、利用者の話に頷いたり、相手の話の聞き方などもとても良い印象だった。訪問前の事例概要の説明もメモをとったり、質問も的確でことからも勉強になった。</p>
25	<p>事前の訪問マナーや実習態度もしっかりと理解していて、こまめにメモをとる姿勢や面談時の態度がとても良かった。</p> <p>理解してもらいたいポイントもしっかりと理解していた。</p>
26	<p>実習生の人柄や実習に臨む姿勢が良く対応しやすかった。体調崩すことなく終了できて良かった。</p>
27	<p>誠実な人柄でわからないことはすぐ質問し、積極的な姿勢であった。</p> <p>人当たりが良く和やかな雰囲気であった。</p>
28	<p>実習に真剣に取り組んでおり、利用者宅でも好印象だった。</p>
29	<p>挨拶、態度がきちんとできており、事業所内、訪問先でも好印象だった。実習に向けての取り組み、実習後の振り返りでも一つ一つ丁寧に行っていた。</p>
30	<p>目標設定、振り返りをきちんと行い、積極的に実習に取り組んでいた。</p>
31	<p>目標設定がきちんとしていた為、各項目でポイントをしっかりと捉える、確認する事が出来ていた。また、受講マナーも良かった。</p> <p>自身のパソコンを持ってきていたので、プラン作成しその場で確認する事ができて良かった。</p>
32	<p>積極的に質問したりとても前向きに取り組んでいた。</p>
33	<p>デイサービスの相談員という事もありモニタリング時には、利用者や家族の話に自然に相槌を打ち傾聴姿勢で落ち着いて実習に取り組んでいた。また、振り返りには色々と質問も出ており意欲的に実習に取り組んでいる印象だった。</p>
34	<p>実習生自身も学びたいという姿勢が感じられ、疑問に思っている点等質問があった。</p> <p>訪問先での挨拶等がきちんとしていて好印象だった。</p>
35	<p>訪問時のマナーも良くきちんと対応できていた。</p> <p>疑問点、保険外や地域のサービス等についても実習生から質問があり学習への意欲が感じられた。</p>
36	<p>熱心に勉強している姿勢が目に見えてわかり、質問も多く聞かれた。</p>
37	<p>実習生は県外からの通いでしたが当事業所を駅から10kmほど離れた農村地域で降雪もあり苦労されたと思うが、遅刻することもなく真摯な態度で実習に臨んでいた。</p>
38	<p>実習生の職場が他の市町村だったので、お互いにサービス体制の違いを確認できた。</p>
39	<p>疑問やわからない事を都度質問して、学びたいという意欲を感じる事ができた。</p> <p>利用者宅での挨拶、本人や家族の話をよく傾聴し（時には筆談で）教えてもらいたいという意欲があった。</p> <p>いろんなお宅に同行訪問したが、汚れてる家でも気にせず、顔にも出さず対応していた。</p>
40	<p>モニタリング・サ担の際、メモを取って聞いていた。</p> <p>わからないことは積極的に聞いてくれた。</p>

令和5年度 実務研修見学実習受け入れに対する評価記録用紙（事業所用）集計

41	実習の目的をしっかりと持って、事前に確認できたことで指導が行いやすかった。
42	積極的に学ぼうとする姿勢が見受けられた。基本的な接遇ができていた。
43	とても勉強熱心という印象だった。
44	実習生が積極的に質問してくれたので、何を学びたいのかを理解して説明できたので良かった。マナーが良く困ったことはなかった。
45	同行訪問後、わからないことを積極的に質問していた。 しっかりとした態度でまじめに取り組んでいた。 困った点はなく、仕事をしながらこれだけの実習をする事は大変だと思った。
46	面談時には見学に徹し、退室後に気になったことを確認していた。 実習の手引きをきちんと確認しており、事業所としては困る事はなかった。

令和5年度 実務研修見学実習受け入れに対する評価記録用紙（事業所用）集計

47	相談員や介護を兼務している方なので、利用者家族、病院、事業所への挨拶がしっかりされていた。 初日に防寒コートを着て来た為、訪問先で荷物になったように感じたが、翌日からは脱がなくていい上着を着用して調整していた。
48	礼儀正しく、問題なく見学実習を行っていた。
49	見学での気づきが多かった。よく観察していたと思う。 気付いたところの質問もあり、実習全体に前向きな姿勢で取り組んでいた。
50	熱心に見学していた。実習後に気になる点を質問していた。
51	同法人の実習生は初めてだった。感染症の心配な時期でも普段から同レベルの予防意識で働く人というのは安心だった。
52	訪問介護のサービス提供責任者との事で同事業所内にも居宅があり、忙しそうにしているぐらいしか感じていなかった様子だが、多岐にわたる業務内容を見学したことで大変さとケアマネに対する本人家族の思いを感じてもらうことは良かったと思う。
53	実習目的をしっかりと理解し、研修を受けていた。 わからない所や疑問に感じた事等を質問し、積極性が伺えた。
54	しっかりした実習生で挨拶や礼儀がきちんとしていて好感が持たれた。 わからない点は実習生の方から担当ケアマネに質問していて、学ぼうとする意欲が高かった。
55	同じ法人という事もあり、ケアマネの仕事我希望しているという事で色々な話が出来た。
56	熱心であり説明していてもメモをとる、疑問点はしっかりと質問するなどしていた。
57	ケアマネジャーの仕事に従事しないことを意思表示していた。 積極的に質問し、学ぶ姿勢や態度。 事前に実習の目標を確認する事ができた。 降雪による影響がなかった。
58	実習生はとても礼儀正しく、事業所に対しても利用者に対しても丁寧に接してくれ安心して同行訪問できた。
59	質問も多く聞かれ、ケースに対して積極的に情報収集が行っていた。
60	わかったこと、わからなかったことを素直に伝えてくれたので、どの程度伝わったかわかりやすかった
61	現在の仕事に活かしたいと、目標をもって取り組まれた姿勢もよかった
62	実習生が事前指導を理解していたため、訪問時に困ることはなかった
63	意欲的に質問してくれて何に悩んでいるのか一緒に考えられてよかった
64	座学で十分に知識があり、質問が的確だった
65	膝の悪い実習生だったが、座る際に自分から愛が悪いことを話し、利用者さんに了解を得ていて礼儀正しかった
66	学習意欲や取組む姿勢が良く、こちらも一生懸命対応できた
67	常に謙虚な姿勢・学ぼうとする姿は、見習わなければと感じた
68	実習に対する姿勢が前向きで学ぼうとする気持ちもあり指導に力が入った
69	実習生と利用者さんの会話から、新たな利用者さんの思いを聞けたり自分のアセスメントの不十分さに気づけた

令和5年度 実務研修見学実習受け入れに対する評価記録用紙（事業所用）集計

困った点（実習生について）	
1	事前打合せで、協会からの説明が理解できていない様子があり、改めて伝え準備を促した。
2	ケアマネジメントをはじめとした基礎的な知識不足を感じた。 同じ法人の職員という事もあり、緊張感がなかったように思う。
3	事業所が病院の連携センター内にあるので名札を付けてほしかった。
4	アセスメント時に確認する項目が多く、どこから聞いていいのか悩んでしまった。思たように意見を聞き出せなかった。
5	用具を選定する担当者会議で実習生が発言する場面があった。経験から声を出したようだが、見学実習のため発言厳禁である事を伝え理解してもらった。
6	困った点ではないが、担当者会議の進行やニーズの抽出等の指導中に不安を感じた様子で「大変な仕事、自分にできるのかな」などの発言があったが、そのように不安にならなくても大丈夫と説明を行った。業務を行いながらばたばたした現場で3日間で面談からの業務説明を詰め込み、頭をいっぱいにさせてしまったようにも感じる。
7	実習同意書が「ない」との事で、実習前面談日に事業所から実習生に渡した。
8	訪問者宅でフレンドリー過ぎてテーブルに肘をついていた事が気になった。
9	見学実習に向けての心構えや準備が出来ていないように感じられた。（初回電話や事前面談時の対応で発覚）
10	スケジュールの変更の可能性もありと事前に説明していたが、実習後慌てて帰る場面もあり、実習日は余裕をもって予定をたてたり、事前に予定を申し出てもらえると良かった。
11	ケアプランを作成する際に相談されたが、具体的にマネジメントしたい利用者像がなく困った。 個人情報の取り扱いが乱雑だった。
12	介護の仕事から長い間離れていることもあり仕方ないと思うが、書類にかなり時間がかかっていた。時間があればもっと同行訪問ができた。
13	実習初日に記録用紙を忘れてきたため、その日の記録記載ができなかった。 居宅サービス計画作成実習の内容・理解が不十分だった。こちらで事務局に確認する等行い対象者の紹介を行ったが、実習生側からの連絡先の確認が不足であり、本人家族双方へ日程調整で迷惑をかけることになった。
14	ネガティブな発言が多かった。 ケアマネージャーの仕事に就くつもりはないと明言された。 利用者宅、退去時の挨拶の仕方が気になった。 事前に出発時刻を伝えていたが、学習に集中している傾向が強かった。
15	医療職の方で、介護と医療を一緒に考えていたところがあった 相手と接する際、自分の立ち位置を理解し接してくださいと伝えた
16	実習前、実習生からの事前連絡が前日だったためハラハラした 訪問時のマナーで、テキスト以外の事も起こり戸惑っていた
17	実習の字御膳準備が全くできてなかった（←同法人職員の実習生とのこと。注意指導したそうです）
18	礼儀、作法、態度は全て良かったが、家族がコロナ感染し、一般所意識的に問題はないが判断に迷った（一部再調整し実施した）
19	実習記録用紙を、モニタリング事例全てを1枚に記載と思っていたので困惑した 実習生は事例ごとに記載、指導者コメントは1枚にまとめてよい と言うことが徹底されていないため、同じ様式で受講者と事業所に説明してほしい
20	利用者宅では礼儀正しく態度良好だったが、事務所出入りの挨拶が曖昧だった 「行ってきます」等、元気に挨拶があると明るく送り出せた
21	目標がもう少し具体的であったり、質問に根拠があると良かった

令和5年度 実務研修見学実習受け入れに対する評価記録用紙（事業所用）集計

22	目標が未記載だったため、実習当日に時間を確保した 9:00からの実習予定だったが、時間に余裕をもって来社してほしかった 理解できているか心配になり、質問をしながら実施したが質問もわからないようだった（コミュニケーションをとるよう心掛けた）
----	---

事業所の課題	
1	事業所内で引継ぎもあり、全員が協力できる体制でなかった。 多様なケースやケアマネのケアマネジメントを見せてあげられなかった。
2	ケアマネの人数が減っており、主マネも2名のため実習生の複数受入れは厳しい
3	初めての受入れで経験者がおらず、日程調整が遅くなってしまった。
4	居宅ケアマネ経験が5年未満が多いため、見学実習が初めてで戸惑いを感じた。
5	事前に同意を得た使用者が急に入院することになり、対象者を急遽変更することになってしまった。今後は複数の候補者選定の必要があると感じた。
6	見学実習期間の中でサービス担当者会議を開催する予定がなく、他のケースで対応する事もできなかった。実習生と見学実習日を決める時になるべく開催出来るように調整が必要だと思った。
7	居宅事業所が病院の連携センター内にあるので、職員の出入りセンター宛の電話などがあり静かな環境を維持できなかった。 ソーシャルワーカーの実習生と日程が重なり、ケアマネの近くに机が用意できなかった。
8	可能であれば次年度は違う主任ケアマネに事前研修に参加してもらい、実習指導者を変更して対応出来る様にしたい。
9	実習受け入れ時期について、検討しないといけないと思った。実習後に訪問し提出資料の作成期間など配慮が必要と感じた。
10	事業所内の業務の平準化。 ケアプラン文章の癖をどう説明するか。
11	ケアプラン作成は実際の作成場面を見学してもらうことはできなかった。一連の流れやポイントを説明するに留まったが、アセスメント方式も様々で、課題分析や検討も、自身も本を活用しないと充分でない状況があるため、全体の説明は難しいと感じた。
12	主任介護支援専門員が1人なので、研修中に担当している利用者や家族の緊急対応が必要になった時は研修対応が困難になってしまう為、今後は見当が必要である。
13	3日間のうち、およそのスケジュールと担当を決めていたが、業務煩雑で説明が飛び飛びになったところがあった。 上旬での日程だった為モニタリング訪問の日程決めに苦慮した。
14	現在のアセスメント方式について検討が必要だと思った。
15	ゆとりをもって仕事にあたる事。電話はなるし、現場との延長線上で指導を行うので余裕がないのが現状。予定作成し指導を行っているがなかなか難しい部分もある。
16	主任ケアマネが一人なので、複数名を実習生として受け入れるのは大変だと思う。実習生を迎える準備を統一して出来るようにしていきたい。
17	更新時のサービス担当者会議は下旬にする事が多く、見学してもらう事ができなかった。サービス追加等の会議が実習期間中にタイミングよく開催できるといい。 その日のスケジュールを実習日の朝、口頭で説明したが書面で示す必要があった。実習生は行き当たりばったりに感じたかもしれない。
18	事例概要に合わせてケースの日程調整、同行訪問を了解してもらってからの調整
19	初めて見学実習を受け入れた為、この内容で良かったのか、実習生にとって何か気付きの得られる実のある実習になったのか、不安ばかりが残る。他居宅の主任ケアマネに相談しながらの受け入れだった為、受け入れた居宅間で情報を共有し、来年また受け入れる事があれば活かせるようにしていきたい。

事業所の課題	
20	利用者の情報共有や学習のねらいの設定、訪問後の振り返りなど予想以上に時間を要し、限られた時間の中で実習対応と通常の支援業務を行う負担があった。今後、事業所内でうまく分担出来るように調整が必要と感じた。
21	事業所にマニュアルといえるものが整理されていない為、標準的な実習受け入れ体制をとることが難しかった。 アセスメントシステムの入れ替え時期に重なり、事業所側がシステムを使い慣れていなかった。
22	当事業所はケアマネ人数も多く、保有件数も多いのですが、見学実習前日に予定していた利用者の都合で訪問キャンセルとなるケースが続いた。見学実習生受入登録をしている事業所側としてもせっかくの見学実習なので、できるだけ現場を見てもらいたい気持ちがある。そのつもりで実習生受入を快く引き受けてくれるケースの選定に配慮しながら実習計画を立てていたが、数年ぶりの実習生受入で実習日程に合わせ事例概要を兼ねた実習内容の訪問を組み込む事の難しさを感じた。
23	当事業所は主任ケアマネ2人で対応していたが、感染症の時期でもあり予定外の業務や対応も多くあり、負担も多く感じた。また実習生にも振り返りの時間が予定通りに行えず気を遣わせてしまった場面があった。事業所としても受け入れについて体制を整えていることから、他の職員へも対応してもらおう事で余裕のある受け入れにつながると感じた。また受け入れ担当以外もケアマネジメントプロセスの再確認や業務の振り返りの機会とすることも必要であったように感じた。
24	適切なケアマネジメント手法について活用できるように取り組む必要がある。
25	狭い事務所で食事休憩をとってもらい実習生に申し訳ない。もっとゆったりした雰囲気を受け入れたい。
26	他の事業所と併設されている為、事務所内で実習を行う事ができず会議室等を使用した。独立した事務所であればより実践的な実習を行う事ができるのではないかと思う。
27	過去に実習生の受け入れを行っており、ある程度マニュアル化してあるので事業所の課題は特にない。
28	指導の流れに沿って対応した、3人で対応（主CM）した、その進め方で良かったか
29	日程調整の都合上、オリエンテーションが訪問後になった為、打合せをしてから訪問にいけるようにする。
30	見学件数が増えたら良かったかもしれない。
31	受け入れの準備（手続き、利用者とのスケジュール調整や業務調整）をはじめ、実習中も必要な電話や相談対応をしながらという場面もあり担当者の負担は大きい為、事業所全体で受け入れる体制を整える必要がある。 資料も制度改正に合わせて編集していく。
32	当事業所では初めての実習生受け入れであり、戸惑うこともあったが、今後引き続き実習を受けられる場合は事業所内で周知していく必要がある。
33	月末であった為、事業所内での調整の時間が取れず、訪問や調整の準備が足りなかった。また、当日の急な変更等も考えられるため多めに訪問の件数調整等の準備が必要だと感じた。
34	市内の地域包括ケアシステムの構築及び社会資源の学びを深める為に障がい・難病・インフォーマルサービスとかかわる事例の見学実習を行うことが今後の課題。
35	スペース的に余裕がなく、実習生はずっと事務所で一緒にいたので気が抜けないようで気の毒だった。

事業所の課題	
36	過去の対応を参考に実習を組み立てたが、久々の受け入れであり事前準備の時間をもう少し設けたかった。
37	給付管理の場面やサ担の見学、各事例の同行訪問や実際に一連のプロセスについて説明し実習生の気付きから自分自身の振り返りを行う機会となった。入退院時における医療との連携にかかわる事例については説明等行ったが実際に見学する場面がなかった。
38	社会資源の活用事例が少なくうまく説明できたなかった。
39	看取り等における看護サービスの活用に関する事例がなく、提供することができなかった。
40	実習指導者の負担が大きい為、負担軽減できるように役割分担が必要。連日の実習は指導者が他の仕事ができないため調整する必要があると感じた。
41	受入当日のスケジュールについてある程度決めていたが当日にばたついてしまい余裕がなくなり対応に苦慮した。受入当日の対応についてももう少し主任ケアマネ間で打合せを綿密にしておく必要があると痛感した。
42	主任介護支援専門員が一人しかいない為、替えがきかない。
43	5人ケアマネがいても実習期間にちょうどよくカンファレンスが開催できるか、なんとか日程調整が間に合ったがもう少し余裕があればいいと思った。
44	複数名で実習生対応するが、自身の業務が進まない。
45	主任ケアマネが一人であり、他の職員も対応できるように主任ケアマネの受講を検討している。
46	突発的な事があり急遽の変更を行ったが、事前に想定して予備の対応策も検討しておく必要があると感じた。
47	訪問看護や訪問リハビリなど、医療系のサービスを利用している方の訪問ができて良かったと思う。
48	同法人からの実習生という事もあり、日程調整があやふやになってしまった。 当日の緊急対応やほかの対応が入ってしまい、説明が中途半端になってしまった。
49	ケアマネが4人なので利用者の中から適切な方を選ぶのが難しかった。
50	自分や周りのケアマネの進捗を常に確認し、突発的な事柄に対しては柔軟な日程調整が必要だと感じた。
51	今年は暖冬で雪が少なく動きやすかったが、訪問時は除雪状況や道路状況を把握して安全配慮が必要であると思った。 来年度も実習受け入れ前の説明を受け準備したい。
52	これからケアマネを目指している方達のファーストコンタクトになるので、丁寧に業務を行い、ケアマネ業務を実施する時に何が大事なのかを伝えられるか。
53	看取りや入退院時の医療連携等は対象者がおらず提供できなかった。タイミングもあるが、次回は調整できるように準備したい。
54	時間が限られている。 実習期間の連絡調整に難航した。 準備段階から関わることであれば良かった。
55	主任ケアマネが1人しかいない為、実習受入に対しての負担が大きい。
56	利用者の望む生活に向けた取り組みをケアマネとしてどのように支援しているかをもっと具体的に説明できればよかった。 地域の福祉やケアマネ人材のレベルアップを図る為にも今後もお積極的に見学実習を受入ていく必要がある。

事業所の課題	
57	複数人で指導する場合、実習期間の中間で情報共有する時間を設けると良かった
58	主任CMが3名いるため、そこでまかなったが、他CMへの協力意識が図れなかった。事業所全体で取組む必要がある
59	休憩場所の確保（場所がなく、職員と同じ休憩では気が休まらない）
60	事業所でインターライ方式を使用。他ツールの説明ができなかったが、違いが説明ができればよかった
61	初めての受入れ。一人一人責任を持ち指導できた。相手が実習生でも、どのような人でも、快く受け入れられるような人間力と更なる技術力を磨いていきたい
62	実習生に「なぜ」を追求したが、考えすぎか答えられなかったことが、実習生の自分なりに工夫したことや考える力を削ぐ可能性があったことを反省した
63	社用車で訪問対応したが、今後は車がないためどのようにしたらいいか
64	指導の機会があまりないため、わかりやすく理解してもらうため細かく言いすぎ、かえって混乱しないか心配になった。今後、指導スキルを学んでいく。
65	指導者の業務量調整や人員不足のため、受け入れ態勢が整っていない
66	事業所が手狭で、落ち着いて学習・記録してもらうスペースが取れない
67	実習生が机上で学んだ内容と実働の紐づけ・根拠を持った解説・言語化が難しく誤解を招いた場面もあったため、トレーニングが必要 事前研修会資料を基にスケジュールしたが、事例が多く振返りにも時間がかかり双方の負担が大きかった（実習期間に猶予をいただけるとありがたい）
68	男性更衣室がない
69	実習生が設定した目標を職員で共有し実習に臨むことができれば、実習生に伝える内容や仕事の見せ方も変わったと思うと、自分だけ把握して終わりにしてしまった点が反省

見学実習の課題	
1	<p>短期間での実習であるが、なるべく多く訪問できるように調整した。その分指導しきれない部分もあったと思う。</p> <p>移動中に経緯を話すようにしたが、どこまで話していいものかと苦慮したこともあった。</p>
2	<p>認定有効期間が長く設定される方が増えており、実習期間に合わせて担当者会議やアセスメントを行なえない場合も想定される。また、2月は月日数が少ないため実習に合わせた調整が大変。</p>
3	<p>感染予防のためではあるが、同法人職員は顔見知り・親しい関係であり、緊張感がなくなっていると感じた。</p>
4	<p>今年から見学実習が再開されたが、実習する期間が感染症が拡大する時期なので検討してほしい。</p> <p>ケアマネ業務をする予定がない実習生にとっては見学しても実践する場がないと思う。研修を通じて得た知識も実践がなければ身につかないと思うが、ケアマネ業務の理解をしてもらえればと思う。</p>
5	<p>限られた日程で、実習生にもバタバタさせてしまった。月末だと担当者会議の調整が課題。</p>
6	<p>業務が忙しい中での3日間の研修に負担感はある。3日間の中ではモニタリングや担当者会議を数件盛り込む事になる為、実習生にとっては色々なケースを見学出来ていいのだと思うが見学という形で業務内容を知るのに3日間という日数が必要なのかどうか。（7時間を3日間との記載は承知している）</p>
7	<p>給付管理業務の見学などを考えると実習期間内での実習予定を気を付ける。タイムスケジュール的に期間がとれないことも理解できるが難しかった。</p>
8	<p>受け入れ事業所によって質的な差が生まれるのではないかと。特定事業所としてどのように実習の振り返りを行い、事業所の質の向上に結び付けていくのが課題。</p>
9	<p>実習生の都合に合わせて日程を組むため、それに合わせて一連の見学実習を組むことが難しかった。7つの事例概要を組むことは難しい。</p>
10	<p>実習期間内にいろいろな事例を見学出来るとよいが、入退院時などや看取り等の事例となると同行訪問は難しいと思われる。</p> <p>実習生に指導できるスキルも必要と感じた。</p>
11	<p>スケジュールの急な予定変更に対応できるように、事例の準備が必要だと思った。</p>
12	<p>今回の実習は3日間ですべての工程を見てもらおう事ができたが、かなり実習日に合わせて調整した為大変だった。</p>
13	<p>面談～アセスメント～ケアプラン～担会～モニタリングまでの流れを理解してもらおう事。今回実施した事を今後の仕事に活かしてもらおう。</p> <p>利用者のニーズをしっかりと正確につかめる事。それに対するマネジメントプロセスを経験する事。</p>
14	<p>様々な現場を見学してもらいたいと思うが、日程の都合や調整が難しい。</p>
15	<p>指導者が1人だと、実習の短期間でプロセスを全て見学するのは難しいと思うし負担が大きい。</p>
16	<p>12月に実習生から連絡を貰った時点ですでに1月の勤務表が出来ているらしく、1月27日～31日の期間は実質的に実習が難しいようだった。1月の実習期間分を2月にまわした方が良いのではと感じた。</p>
17	<p>多様な生活の実態を見学できるいい機会なので、現状を見てもらいたい。しかし、実際に同意を得られる方が限られている。</p> <p>感染予防の観点から、事業所モニタリングに行ける所が限られている。</p>

見学実習の課題	
18	今回は日程的にもちょうどアセスメントやモニタリング、担当者会議等一連のケアマネジメントプロセスをみてもらえるような事例があった。最近では認定機関が延長され更新の担当者会議がない月もある。その場合、口頭で伝えても良いとはなっているが、調整する側としては負担感を感じるといった。また実習記録についてコメントを記入しているが、その項目ごとその日のうちに記入し返却する負担感はある。
19	実習生の目標が当日でなく事前に確認できると、実習生の目標に沿った準備や設定に配慮でき、より深められるものになるのではないかと。実習指導者研修で説明があったと思うが、ケアプラン作成の利用者紹介の理解はあったがどのように実習生が訪問するのか、いつまでに実習生が計画書を作成しなくてはならないかなど不明な点があり戸惑った。
20	感染症リスクが高くなる時期であり、実習生や事業所側、予定していた対象ご利用者、ご家族の体調を含め、実習期間中に確実に実習を終えることが出来るかという不安があった。1月2月と利用者の状態変化が多い時期でもあり計画変更が予想される事を踏まえると、居宅事業所側や実習生の職場負担もあるのではないかと考えた。
21	実習期間について感染症を踏まえ再度検討願いたい。
22	アセスメントの手法が統一されていないので実習生がますますわかりにくいのではないかと。2月は日数が少なく通常の業務をこなしながらの見学実習は精神的に負担が大きい。
23	担当者会議が予定していた受け入れ期間内になかったため、説明のみになると思っていましたが、急遽予定日の翌日に実施する事ができた。実習生には仕事の調整をつけてもらい面倒をかけた。受け入れ期間、実習生の仕事の兼ね合い、受け入れ先の都合など日程調整が一番難しいと思う。
24	今年度からアセスメントの実習先を受け入れ事業所に斡旋させることとなったが、事業所側の負担も大きかった。従来通り実習生が自ら実習先を探す方法に戻した方が良いと考える。アセスメントやサービス担当者会議等、テーマに合った現場を同行見学させたいと考えるが、実習期間内での日程調整が難しい。サービス担当者会議やアセスメントは月の下旬に開催・実施されることが多い為、実習期間を月半ばから翌月の半ばに設定すると現場見学の日程調整が行いやすいと考える。
25	実習日程が訪問を調整しづらい時期だった。給付管理については良い日程だった。
26	見学実習の期間は現状の3日間が妥当だと思う。1～2月の実習の為、雪の影響が心配だった。（降雪状況、道路状況によって大幅に変更になることもある為）そのためいかなる状況でも対応出来るように様々な状況を想定しておく必要があるとおもった。
27	感染症の流行期であり、家族の心理的負担を考えると同行ケース選びは慎重に行い、状況に応じて書類説明に変更したり、お互い多忙な中での実習だが体調管理を行いながら無理せず予定を変更する等感染リスクに配慮が必要。
28	実習受入依頼書が届きその後、実習生からの連絡がくるまで短く事業所内での調整や準備等が難しいと感じた。
29	実習期間中、利用者家族・事業所都合により見学を実際に行うことが難しい事、日程調整ができず座学での見学になる事、それぞれの指導者が実務を行いながらの見学のため時間的余裕がない事。
30	サ担当は日程的に同席が難しく、説明のみ。それなら講義のみでいいのではないかと。

見学実習の課題	
31	感染症流行期である為、施設側（特養併設）と実習生受け入れについて調整が必要となり対応に苦慮した為、日程上仕方ないが事業所としては負担となった。
32	複数の事例を見学してもらったが、日程調整が難しく限られた件数となった。
33	基礎資格、資格取得の目的、今後の実務予定（意向）の有無によって実習生の立場にあった説明の工夫が必要と感じた。
34	対象者の設定について、実習生の理解がばらばらであり、きちんと理解して設定している人や紹介してくださいと言う人がいて指導する方が混乱してしまった。
35	引き続き感染症に対する対応や理解を得ていくことが必要。 問題た課題の多いケースは同行訪問に理解を得ることが難しく問題の少ないケースになっている。
36	給付管理も大切な役割であるが、事業所内での給付管理の締め切りや確認作業も重なり負担が大きかった。実際に実務についてから学んでもいいのではないかと感じた。
37	事業所側も実習生側も見学実習の受入期間が短いような気がする。もう少し余裕があるとありがたい。
38	実習生が直接利用者や家族に聞き取りを行う実習は、利用者と事業所との信頼関係ができていて初めて成り立つので実習生の人柄がわからない中で事前に段取りをする事が困難だった。
39	短い期間、決められた期間なので全ての項目の見学は難しい。また見学実習終了後、間もなく実習生作成のケアプラン提出となるようでタイトなスケジュールだと感じた。実習生が理解を深めたい事を事前に確認しておくとういと思った。
40	実習生の同行に消極的な利用者も多く、依頼できる方が限られる。 事前に同行許可を得ないといけないことからアセスメント実習は更新の方を対象にしてしまう。 実習同行開始から終了までの日程がとてもタイトである。今回は実習生も協力的だったので日程調整がうまくいったが、それぞれ都合がつかない大変だったと思う。
41	病院訪問時のアセスメントに時間を要してしまい予定終了時刻をオーバーしてしまった。 月末のイレギュラーな対応などで実習生を待たせてしまう場面もあった。
42	実習生の勤務体制等もあると思うが、月初の訪問となると組みづらい時もあるので月中くらいの時期だとありがたい。機関としては3日間で充分だと思う。
43	同行訪問は本人や家族の受け入れを考えると安定しているケースにお願いしやすい。 実際に新規のアセスメント訪問に同行出来れば良かったと思う。タイミング的にその機会を準備する事ができなかった。 同行訪問を予定していた利用者が入院となり、実習期間に訪問出来る方を再調整する事に苦慮した。
44	見学実習前に対象者の情報提供をもう少しの方が良かった。
45	実習期間が短くその間で実習内容を組むのは大変だった。予定通りに進んだので良かったが、トラブルがあると伝達にせざるをえないと思い心配だった。
46	居宅サービス計画作成、実習内容をよく理解していなかった為、その内容と、自分での日程調整が必要なる事、その日程までの自分のスケジュールの調整等、詳細な説明が必要だと感じた。
47	事前に協会から見学実習内容を説明してもらったので特に課題を感じなかった。
48	期間が短く、事例に限りがあると感じる。また、コロナ禍という事もあり同行訪問出来る方の選出などにも影響がある。

見学実習の課題	
49	2月は1年で一番実働日数が不足している。月初めはレセプト業務や認定調査等があり多忙。認定更新時会議の開催はほとんどない。 対応可能時期でマッチング出来た方が良い。 見学実習と居宅サービス計画書作成を分けた方が見学実習に集中でき負担が少ないのではないか。
50	看取り事例の同行訪問は対象者側の心情的に難しいように思う。
51	当方はケアマネ人数が多いのでモニタリング訪問などで協力を得られたが、少人数の事業所は見学実習の受入の業務負担が大きくなり大変だと感じた。
52	指定期間が降雪期、感染症流行期にあたるので、指導にあたるケアマネ自身も健康管理に勤めなければならない。
53	「看取り」、「退院後」は人の出入りも多く、見学実習は難しい
54	実習の書類が多く、把握しきれいていないようだった 業務多忙の中、コメント記載が負担に感じた。記載を選択方式にするのはどうか
55	見学初日が月初めスタートだと順序良くできる。月末スタートはサ担やモニタリングからとなり実習生にわかりづらいかも
56	利用者・家族に気を使わせないよう、十分な事前説明が大切。ケース内容・本人家族の状況のバランスを考える必要あり
57	タイムリーなサ担開催に難しさを感じる
58	受入時期にアセスメントやサ担の機会がない、看取りの方がいない等、実習先に求められていることができない
59	利用者さんが実習生に語り掛けるが、見学実習のため積極的に応答できず対応に苦慮したと思う
60	課題提出期間を考えると、実習期間は短いと感じる
61	同行訪問を拒むケースが多く、調整に時間を要した。実習生1人の訪問は全て断られた 実際に事業所紹介は難しい。以前のように実習生が探す が現実的
62	実習期間内でのプラン立案は、期間的に困難では。その際の利用者への同意書類について、事前研修時に説明あると良い
63	モニタリング時期は業務多忙で受入れが大変
64	実習生の置かれている状況、スキル、実習の時間帯、日程等すり合わせ、法改正に伴う変化への取り組み、少子高齢化問題、働き方改革、通信情報機器の活用等へ順応していく力のアップが課題。受講者は記録が多くて大変そうだった。
65	実習期間が短いためスケジュール調整が課題
66	事前準備ができていない背景に、介護業務がきつ過ぎて実習準備に手を付けられないともあるのかなとも考える
67	利用者さんの個人情報をごとまで伝えていいのか迷う
68	モニタリング訪問後、利用者さんも気遣いが出てしまうため、後ほど「他に話したいことはなかったか」再確認を行った
69	ケアプラン作成対象者を紹介し、実習生のアセスメント訪問時にトラブルが生じた場合、紹介側の責任が問われる可能性がある
70	実習受入がわかってから、日程調整までがタイトになっている
71	多くのケースを見学した方がいいと考えていたが、実習生が課題を考えたり振り返る時間もあるため、理解しやすいケースを少ない事例数の方がいいのかもしれない

見学実習の課題	
72	当事業所（長岡市）ではない実習生（柏崎市）だったため、地域や社会資源の知識がなく把握に苦労していた。移動時間もかかるようだったため同市町村内で受入れできると良い（←近隣事業所がなく、やむを得ないマッチングです）
73	研修期間に限られるため、複数の利用者さんの見学でケアマネジメントを理解するのが難しい。同じ利用者さんを通じて一連の流れを見る方が理解が深まるのでは
74	自事業所ではMDSを使用しており、研修でのアセスメント方式と異なることが気になった 給付管理業務は短時間の見学では理解が難しいようだった
75	いろいろなケースを見てもらうのが勉強になるが、1つのケースで各プロセスに同行の方が一連の流れをイメージしやすい（それを複数事例予定を組むのは困難のため難しい） それぞれの利用者さんで各プロセスの見学はイメージをつかむのが大変化かもしれない
76	ターミナル事例で、使用者さんの体調が悪くコミュニケーションが取れなかったため、十分に様子を伝えられなかった
77	見学前のオリエンテーションや支援経過入力方法について、行ったが振り返りシートがなかった（落とし込むことで理解が深まると思う）余っているシートを使い記入してもらったが記入は不要だったのか？実習生の負担になるか？と困った
78	計画書作成実習について、実習生と同じ概要資料があるといい
79	感染症の心配がある。限られた期間内にできなくなり延期や中止となった場合、実習生の資格に影響でないのか懸念されることが多々ある（見学実習は継続と思うので、事業所として来年度は早期に準備したいと思う）
80	実習期間、課題×切日までの期間に余裕があるとありがたい（←同意見多数あり。次年度の前期日程を要検討）
81	ケアプラン作成実習で、実習生1人でアセスメント訪問行かせることは、その後の事業所と利用者との関係性に影響してくると思うため抵抗がある 以前のように実習生自身で関わりのある中から選定する方がいいと思う
82	実習生の目標がしっかり定まっていると、その目標に対し学びを得てもらえ、事業所としての準備やスケジュール調整ができるため、実習生に明確な目標の確認ができるよう、実習オリエンテーションで働きかけていただきたい
83	座学がリモートであり、実習生間の交流もなくわからないことをそのままにしている方もいると思う 事前問合せで解決する方もいるが実習先で聞くつもりの方もいるため、事業所の負担になると思う
84	今後、介護者世代が若くなることで、実習受入の理解を得ることが難しくなりそう 若い人は他人を家に上げることに抵抗がある方が多いため、一人暮らしの方に限定されてしまう事が心配
85	特定加算算定事業所の要件となるため、同法人に関係なく対象事業所でマッチングするといい
86	せっかく実習を行うなら、実体験ができるよう人数の多い事業所での実習が望ましい
87	感染症が心配な時期であり、予備日があるといい
88	実習生の出身が事業所の近所だったため、念のため対象地区の利用者さんは訪問リストから外した。マッチングの際に検討が必要と感じた

見学実習の課題

その他	
1	提出書類用のチェックリストがあるとありがたかった。
2	モニタリングは、アセスメントの場面でもある事を伝えた。 給付管理では、「なせ休んだ」「なぜ変更になった」などモニタリングの視点でもある事を伝えた。
3	日頃の業務内容を見直す事ができ、実習受け入れを繰り返す事は事業所としてもスキルアップにつながると思った。
4	実習生は包括勤務だった為、予防ケアプラン（総合事業）の過程と居宅サービス計画書の過程の違いを指導したことで違いに驚く事が多かったようだ。
5	当事業所にきた実習生はとても素直で頑張っていた。ぜひケアマネになってほしいと思う。ケアマネ不足です。
6	実習生が事例を作成するために自分一人で訪問しアセスメントを行う事が理解できておらず、協会に連絡を入れてしまった。すみません。
7	実習生との訪問予定を組んでいても、緊急対応で予定が変更してしまった。もう少し実習期間があるとありがたい。
8	今までも見学実習で実習生に説明を行ってきたが、今回は初めて実習指導という立場で日程調整と見学説明を行い、改めてケアマネの実務や立場、利用者家族との関係性について再確認する事ができ、自分自身も新たな気づきがあったり学ばなければいけない姿勢を学ぶ機会となった。次年度もまた実習生を受け入れる際は今回の経験を踏まえ、双方共に学びの機会、新たな課題や気づきへの再構築ができればと思う。よりよい経験をいただき、ありがとうございます。
9	マッチングについて、居住地と距離があり自家用車で約1時間かけて実習に参加していた。冬季間の実習は仕方ないが、住所地、居住地、勤務地なども考慮してマッチングした方が実習生にとって負担が少ないのではないか。
10	偶然、訪問後に利用者がコロナ感染した事が判明し、実習生に抗原検査の協力をお願いし陰性の報告を受けた。
11	天候によっては訪問先のご家族に除雪をお願いすることになる心配があった
12	利用者さん皆さん、協力的でよかった
13	何年もかけて合格した方。費やした時間を後悔しかけたが、実習を経験し本当にケアマネをしたくなった。来てよかったと言っていたが、ケアマネも前向きな気持ちになれた
14	雪国事情から、試験実施日を夏ごろに変更、実務研修を秋ごろ実施できることを期待します
15	現場では、テキスト以外の事も起こるため、研修の座学と現場の見学実習が両輪であると改めて感じた。実習生も現場を見て「奥が深い」と言っていた
16	実習生から「もっと多職種との連携部分を見ることができると良かった」との意見があった。サ担会議の見学はできたが、貴重な意見として今後の実習時に機会が得られるよう配慮したい
17	実習生に利用者さん紹介は利用者さん・家族の負担を考えると悩ましかった。（初対面の方がくるのは負担になると思うので）
18	見学実習を通して自らも学ばせてもらい「背筋を正して業務に臨まなければ」と感じた
19	実習生の基礎資格・年齢・経験年数によって理解度は大きく左右されると感じた
20	実習生は見学を重ねるごとにケアマネ業務の多さ・責任の重さを実感されておりケアマネとして従事してもらえるか不安になった

21	見学1日目に、作成実習対象者の紹介を頼まれた。事前面談の際に言ってもらえれば余裕をもって紹介できた
22	他事業所がどのように実施したか知りたい。今後の参考にしたい
23	実習生だけをアセスメントに行かせることが不安 利用者さんとある程度意思疎通がとれ、くせのない家族という好条件はなかなかいない
24	正座で足が痺れることがあるため、訪問中に足を崩してもいい説明があるといい
25	三日間の限られた日程で、「在宅生活のだいご味」を伝えられたか、通常業務の連絡のある中落ち着いて指導できていたか、実務でわからないままにならないか、それがケアマネ離職にならないか心配
26	事前研修資料が多く、講師で重複している箇所あり見にくかった
27	準備・時間がかかるため、報酬があってもいいのではないか。3日間は業務負担になる
28	計画書作成実習対象者は、家族の都合等で調整が難しく、独居者を紹介したがお互いにハードルが高いと感じた 実習生が働いている事業所の協力で選定し、協力者がいない場合のみ実習先の紹介でいいのではないか
29	次年度以降の参考のため、実習生がどう感じたのか、実習生の感想をいただけるとありがたい
30	利用者さんが気を遣ってお菓子を渡そうとして困っていた 業務内容を全く知らない中の同行で少々戸惑っていた
31	他国の方だったため、文書能力は不足ないがコミュニケーションには少し配慮が必要だった。 指導内容が通じているか一つ一つ確認した 実習を通じ、是非ケアマネの道に進んでもらえるよう協会全体で取組んでもらいたい

令和5年度 実務研修見学実習受け入れに対する評価記録用紙（事業所用）集計

実習生アンケートより	
1	現場での実際の業務や、利用者とのかかわりの大切さが分かった。
2	実習先の職員の方々には、本当に親切にしてください。「研修を受けていて、わからないところがあれば聞いてください」とおっしゃってくださったので、ZOOM研修での理解不足や疑問点を説明してもらった。
3	通常業務の中で実習を受け入れてくださった居宅にはとても感謝しています。勉強になりました。
4	学んできた基本的な知識や技術を実務で流れを確認することができた。
5	有意義な実習だった、指導者への感謝の気持ちを忘れないと思った。